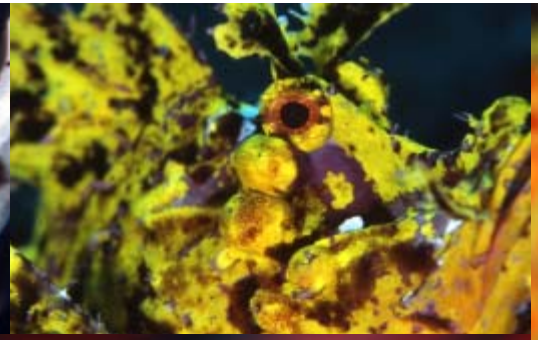
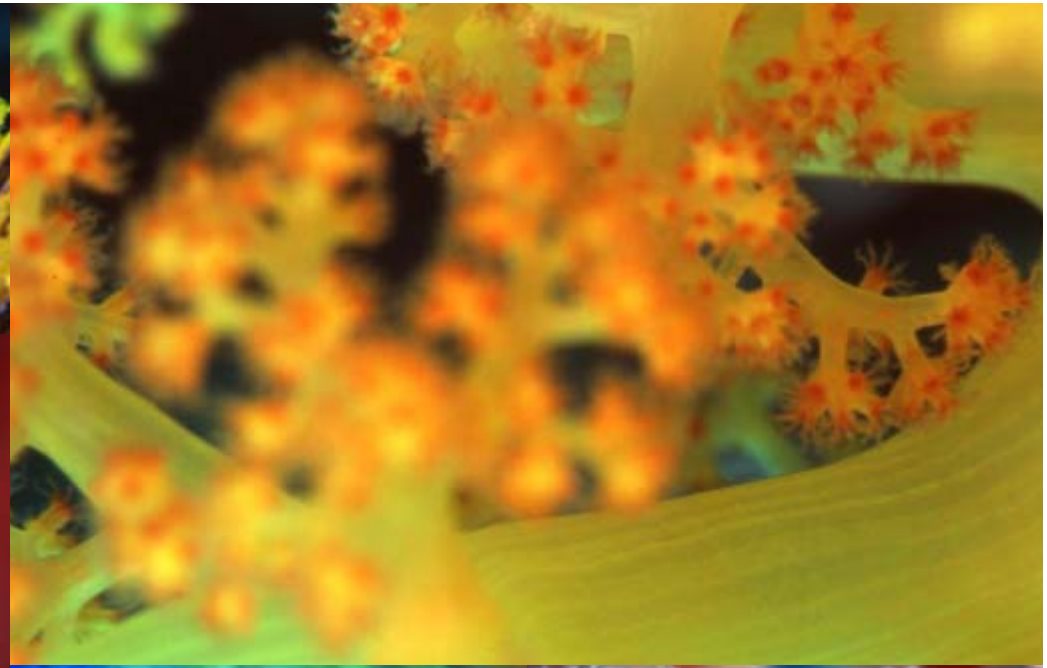



撮影・文：鍵井靖章
協力：ワールドエクスプローラ

アジアの魔法の海へ
メナド・ミンピ号クルーズの旅

インドネシア・スラウェシ島北部に位置するメナド。
世界最大級のドロップオフと広大なサンゴ礁で知られるブナケン国立公園や
カラフルでビビッドな水中景観のバンガ島、そして、近年最も注目されている
マクロパラダイス・レンベ海峡など、世界的にも魅力的なダイブスポットが揃うメナド周辺の海域。
そんな魅力に溢れたダイビングエリアを4泊5日のクルーズ（最大15本ダイブ）で味わい尽くす。

ワールドエクスプローラ　夏季限定オリジナルツアー

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

左）ピナクルに群生するソフトコーラル。紅葉の季節を思い出す（サハウン）
右）ソフトコーラルになかで見つけたガラスハゼ。動かずにじっとこちらを覗っていた（サハウン）

バンガ島周辺

魔法の海への扉
蛍光ソフトコーラルの
迷宮へ
タイムトリップ！

バンガ島を中心とした、スラウェシ島最北端に点在する島々の周辺海域には、メナド周辺でももっともカラフルなダイビングポイントが点在している。

そのなかでも、バンガ島の「サハウンⅠ、Ⅱ」というポイントでは、世界でも稀な蛍光ソフトコーラルの森に出会うことができる。

水深約16mに鎮座する大きな根はまるで、ピナクルのように海底から水面まで突き出ている。岩肌はカラフルなソフトコーラルが包み、そのものがまるで美術館にある展示物のようである。もし海の中で新しく世界遺産を指定することができるならば、私は迷わずこのバンガ海域のソフトコーラルの根を挙げたい。また、その根や周辺の環境に適応しているマクロの住人にも注目したい。美しい背景に小さな生命体。そんな写真がたくさん撮れる。まだあまり知られていないこの蛍光ソフトコーラルの森に訪れる度に、「自分だけのアトリエ」などと思いながら、いつも幸福感で満たされている。

少し根の先端を大きく廻ると、無数のヨスジフエダイの群れやマダラトビエイ、カンムリブダイとの遭遇もあり、大物も楽しめる。

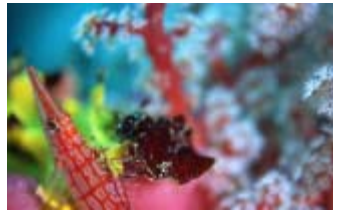
バンガ島の南側のポイント、「タンジュン　セピア」というポイントでは、スロープ状の傾斜を潮の流れに任せて進んで行く。30cm大のオオモンイザリウオやニシキフウライウオ、コブシメなど人気の生物が続々登場する。またウミウシやエビやカニなどの甲殻類もすごい眼力をも持ったガイドさんがたくさん見つけてくれる。このようなソフトコーラルの地形ポイントは、大物ポイントに比べ、やや人気薄。しかし、大物好きダイバーにも是非このバンガ島周辺のポイントにも潜って欲しい。黄色やオレンジ色のカラフルな景観は、大物と出会えた時と同じように、元気を与えてくれる。クルーズ初日で潜るのには、このバンガ島周辺のポイントはとても景気付けの良いポイントなんです。

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

元気いっぱいのカクレクマノミの子供。あくびをしている様子がとてもかわいい

ソフトコーラルを背景に、クロスジリュウキュウウミウシを撮影

カラフルなソフトコーラルで覆われたピナクルはまるで美術館にある展示物のようだ



カラフルな森のなかで見つけたクダゴンベ

これほど大きなヨスジフエダイの群れは、この辺りではここバンガだけ

ホヤの仲間の面白いオブジェ。まるで、「ひょっとこ」だ

鍵井カメラマンが教える撮影ポイント＆見どころ・バンガ編

バンガ島の代表的なポイントである「サハウンⅠ、Ⅱ」の撮影ポイントは、なんと言っても、大きなピナクル状の根。蛍光のソフトコーラルが群生しているのですが、どこをどんなカメラで撮影しても「美しいソフトコーラルの森」の写真が撮れます。しかし気を付けたいのは、ただ撮るではなく、気に入ったソフトコーラルを見つけ、その周囲のカラーバリエーションも考えて撮影すれば、写真にメリハリが出て気にいった写真が撮れると思います。ちなみに、今回、前ページで掲載した、流し撮りの写真は、実は一枚だけ試し撮りしたものですが、結果とし僕の一番のお気に入り の写真となりました（笑）。遊び心も大切ですね……。
35mm～20mmクラスなどの様々なレンズでぐっとソフトコーラルを小さな範囲で収めて撮影するのもよいでしょう。

そしてお勧めなのが、ソフトコーラルに住んでいるハゼなどのマクロの生物の撮影。ピナクルの周囲には小さな根がいくつもあり、その根にもビッシリとソフトコーラルが付いています。砂地にちゃんと着底し体を固定して、撮影ができるので、大変助かります。これだけ、カラフルな背景があると、ウミウシやクダゴンベなどを見つけた時、ちょっと周囲に気を払い、レンズの角度を変えるだけで、ほんとカラフルな写真が撮れます。良いキャンバスがすでに用意されている、そんなポイントです。

コース取りが一応あるのですが、もし、この根を中心に撮影したいというリクエストがありましたら。安全に潜水できる範囲で一緒に撮影したと思っています。そして「タンジュン　セピア」は、なだらかな傾斜でのリラックスダイブですが、３０センチ大のオオモンイザリウオからコブシメ、ウミウシ、ウミシダカクレエビと大きなものから小さなものまでが勢揃いしています。動かないものがほとんどなので、デジタルカメラでも撮影が楽しめます。それは、前述の「サハウンⅠ、Ⅱ」でも同じなのですけど（笑）

バンガ島周辺

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

左）レンベ海峡の名物魚・バンガイカーディナルフィッシュ。レンベ海峡では必ず会える（ポリスピア）
右）こちらも、レンベ海峡で是非会って欲しい、ヘアリーフロッグフィッシュ。イザリウオの仲間だ（デニスヘアポール）

レンベ海峡

レンベ海峡は まさにマクロ派 ダイバー垂涎モノの 生物の宝庫なのだ

ミンピ号クルーズの特徴のひとつはレンベ海峡でのダイビング。メナドがある半島の反対に位置するダイビングエリアで、知る人ぞ知るマクロ生物の宝庫。

このレンベ海峡を一躍有名にさせたバンガイカーディナル・フィッシュ（プテラポゴン・カウデルニィ）をはじめ、毛の生えたイザリウオ、ツノカサゴ、ゼブラバットフィッシュ、珍しいウミウシなど他の海では憧れとされている生物たちとの出会いがほぼ約束されている。まさにマクロ派ダイバー延髄モノの生物の宝庫なのだ。

「ポリスピア」は代表的なポイントのひとつ。砂地ではイザリウオ、イッポンテグリ、ハゼの仲間、そして頭部から白いラインを出すハタタテカレイなど、面白い生物が続々。浅瀬の桟橋下付近を散策すると、そこはもう水族館状態。ウミウシの仲間やサラサハタ、アカククリのキュートな幼魚などマクロの生物が盛沢山。そして、真打はやはりバンガイ　カーディナル・フィッシュ。ガラス細工のようなボディに、白と黒の模様が美しい。口内保育する種類で口いっぱいに卵を喰わえている個体もちらほら。普通のダイビングでは、このレンベ海峡でしか見られないというレアな魚である。

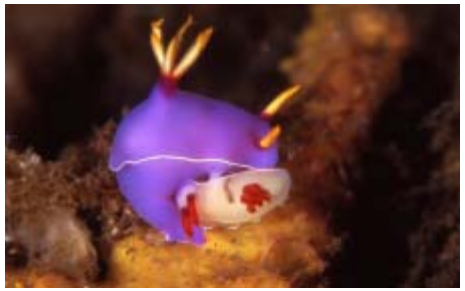
その他の注目の魚は、毛の生えたイザリウオやツノカサゴ。砂地の上にちょこんといて、落石や葉っぱなどに擬態していることが多い。見つけるのはガイド任せだが、その魅力はピカイチ。

ポイントによって環境は多少変わるもの、ほとんどは砂泥地の傾斜のあるパッチリーフで、透明度も10mから15mとあまり期待できない（海峡で多少異なる）。しかし、そこに生息する珍しい生物はそんなハンディも忘れさせてくれるほど、バラエティーに富み、その魅力は広大無辺。このレンベ海峡でマクロの面白さに目覚める大物、透明度派のダイバーも多い。

マクロの小さな生物ばかりだけど、大きな「感動」と「驚き」を与えてくれるレンベ海峡。一度潜ってみて下さい。

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

ヒプセロドリス・インフカタ(ウミウシ)の正面写真。独特の色彩を纏う。



上）雌雄同体であるウミウシの交接
右)オレンジ色がインパクトがあるギュンノドリス・ルブロパプロサ(ウミウシ)

オレンジ色のフグの幼魚がこちらの様子を覗いていた

レンベ海峡

葉っぱに擬態していたゼブラバットフィッシュの幼魚

こちらは擬態上手のツノカサゴ

威嚇のために白いラインを出すハタタテガレイ

マクロの小さな生物ばかりだけど大きな「感動」と「驚き」を与えてくれる

鍵井カメラマンが教える撮影ポイント&見どころ・レンベ編

レンベ海峡はなんと言ってもマクロの海ですから、小さな生き物が撮影できるクラスのレンズが欲しいです。一眼レフカメラならば、50～100クラス。デジタルカメラならば、標準キットでも充分に撮影することが可能ですが、よりこのレンベ海峡で自由に撮影をしたいと考えるならば、やはり外付けのマクロレンズが欲しいところです。あれば、ぐぅーと撮影の幅が広がります。今回、紹介した毛の映えたイザリウオやツノカサゴなどは体長が約10cm～15cmほどありますので、マクロレンズがなくても撮影できますが、この海峡の特徴のひとつであるウミウシの場合、やはり小さなものが多いですので、マクロレンズが有効かと思います。また、バンガイカーディナルフィッシュですが、ポリスピアというポイントで必ず見れます。数もとても多く、自由に撮影することが出来ます。ただ見慣れない生物のために興奮し、コースの途中で、撮影を始めてしまい、とてもたくさん居るエリアに着いた頃にはフィルムアウトということもありますので、エントリー前にしっかり撮影ポイントを聞いてください。個人的にやはり、バンガイカーディナルフィッシュも成魚よりも若魚がキレイで良いモデルになると思います。また、ひとつのイソギンチャクにバンガイカーディナルフィッシュとクマノミが共生しているものもあり、両種を同時に撮影することも出来ます。

その他に頭部から白いラインを出すハタタテガレイや大小様々なイザリウオ、そしてゼブラバットフィッシュの幼魚にオレンジ色のフグの仲間など、こちらもあまり動かなくて、撮影し易い生き物が目白押しです。人気のピグミーシーホースも水深15mのウチワに4～5匹発見できます。「撮影したい！」と思うものが多過ぎて目移りするくらいのレアものの宝庫です。

水中環境ですが、ビトゥン側は海底が黒い泥質状のところが多く、逆にレンベ島側の海底は灰色の砂地で、ビトゥン側に比べると若干明るい印象です。透明度はバンカやブナケンエリアに比べるとかなり落ちます。良い時で10cm～15cmくらいです。また水温も若干低く、25～26℃の日が多いです。最後にワイドレンズに関してですが、ほとんど撮影に使用することはないと思います。私自身も28mmレンズを前ページのバンガイカーディナルフィッシュに使用しただけで、毎回、マクロレンズ以外は海に持ち込みません。

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

左)サンゴの上でデバスズメダイの幼魚が吹雪のように舞っていた。
右)巨大なアオウミガメが堂々とモデルをこなしてくれた。

ブナケン島周辺

レンベ海峡から、ブナケン国立公園へ。海の環境の違いに驚き、メナドの海に病みつきになり始める3日目！

メナド近郊の主要なDポイントが集結するブナケン国立海洋公園。そのなかでもタンジュンコピは大物ダイビングスポットしてNo.1の呼び声が高い。潮の流れに身を任せ、リーフから外洋に突き出た根に近づくと、カスミチョウチョウウオやウメイロモドキが“ごっちゃり”と群れている。地形がドロップオフなので、太陽の角度によって魚たちがシルエットになる。その様子がとても美しい。

根の先端辺りで見上げていると、バラクーダとギンガメアジの群れに遭遇した。両種が交わりギンバラ状態になることもある。じっと待っていると、潮流次第では彼らから近づいて来てくれる。単体もしくは複数のイソマグロやロウニンアジが泳ぎ去り、ナポレオンも登場する。潮の流れに乗って
お魚たちがパレードをしている。そんな印象を受けるポイント。「魚影の濃さはでは、群を抜いている」、と後ろ髪を引かれる思いで、水深を上げていくと大きなナンヨウツバメウオの群れがフィナーレを飾ってくれた。

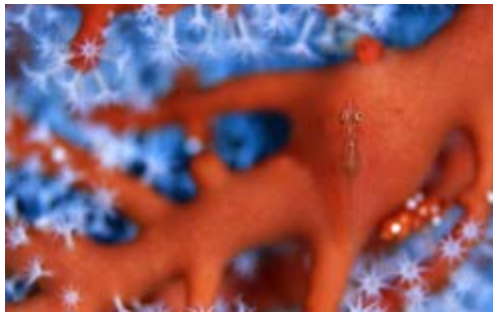
そして、ブナケン島西側にあるレクアンⅠ、Ⅱ、Ⅲは最もポピュラーなダイビングポイントで誰もが、1500～1600mにも落ち込むダイナミックなドロップオフでのダイビングを楽しむことができる。様々なサンゴ礁で埋め尽くされた水深5mの棚の上ではロウニンアジやカスミアジがクマザサハナムロの群れを狙って泳ぎ、テーブルサンゴの上では小さなスズメダイの青い群れが可憐に舞っている。また、壁沿いのオーバーハングではよく、お休み中のカメに出会える。

棚からブルーブルーウォターへ1歩に飛び出すと、もうそこは垂直落下の壁。私たちは、浮遊感を楽しみ、まるでクレーンで吊られているような感覚でドロップオフに棲む様々な生物たちとご対面できる。
人気の高いブナケン国立海洋公園は、何度潜っても飽き足らない。

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

見上げるとギンバラが頭上を泳いでいた(タンジュンコピ)

右)日本近海にはいないリボンスィートリップス
右下)ニシキヤッコもメナドの海ではよく見られる



オレンジ色のイソバナを舞台にカラスハゼが登場した

鍵井カメラマンが教える撮影ポイント&見どころ・ブナケン編

ブナケン国立公園での撮影は、カメラの選択が必要ないというか、ワイドもマクロの被写体も揃っているので、どんなカメラでも楽しむことができます。まず、クルーズのルートである「タンジュンコピ」ですが、このポイントはリーフ沿いにクマザサハナムロやウメイロモドキが壁状になっていて、先端でもギンカメアジやバラクーダの群れがいます。。これらはやっぱりワイドレンズで撮影したいが、被写体までの距離を縮めることが出来ない場合もあります。そのような場合は、デジカメの標準キットでも十分撮影することができます。というのも、透明度が高いため、多少距離が離れていても撮影することが可能。また、このポイントでは、かわいいクマノミやクダゴンベの他、実はキンチャクガニといったマクロの面白い生物もいます。

カメラ一台でワイドもマクロも共用してるい方は、とても悩むポイント。しかし、前日のレンベで、マクロ三昧しているので、ここでは、やはりワイドがオススメです。

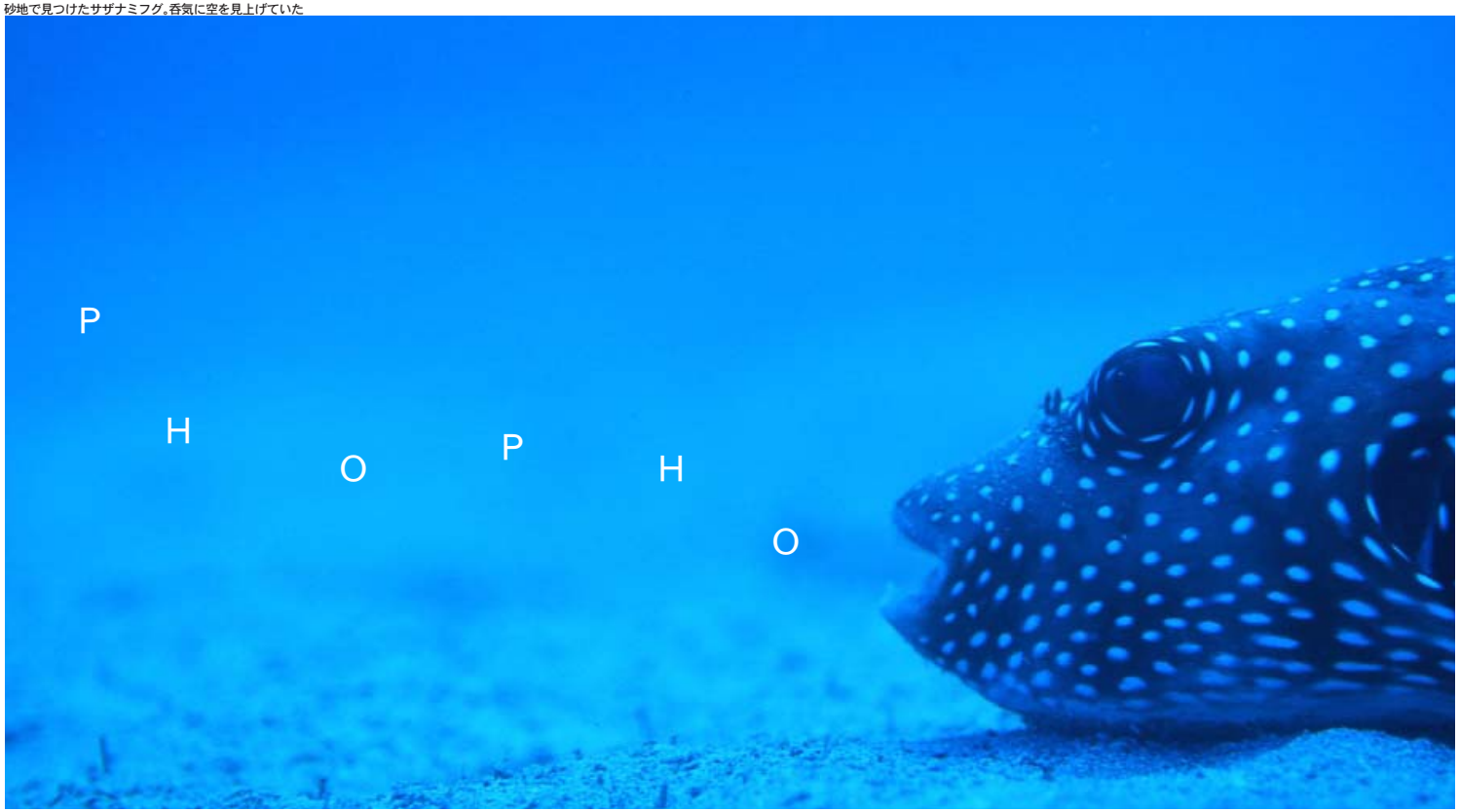
フクイポイントには、餌付けされているナポレオンがいますが、実際、餌を与えない限り、なかなか警戒心が強く、近づくことができません。ミンピ号ではナポレオンの餌付けは行っていないので、撮影は難しいが、実はクリーニングされている時があり、その時は、割りと近づくことを許してくれます。そして、少し深度を落としたガレ場ではバーチークダムセルやレッドフィンフェアリーラスなどの良く探せば珍しい魚がウヨウヨいています。また人工的に並べられた名物のオオシャコガイがあって、そこにはハゼが共生しているのでこちらもオススメの被写体のひとつ。レクアンⅠ、Ⅱ、Ⅲに関しても、ワイドでもマクロでも楽しめるポイント。ドロップ沿いはサンゴ礁が豊かで、カメやサメ、ロウニンアジやカスミアジの編隊にも出会えます。カメに関しては1ダイブで6～7匹も会うことがあり、大きさも海獣サイズのものがいます。物怖じすることなく、堂々とモデルになってくれるので、撮影にとても協力的です。このブナケン国立公園は、昔からアジア、アメリカのプロカメラマンがこぞって作品を撮りにやってくる海で、このブナケン国立公園をテーマとした素晴らしい写真集もあります。2年ほど前にはピグミーシーホースの新種であるヒポカンポス(通称)がこの海域から見つかりました。何かと話題を提供してくれる海です。

ブナケン名物のサンゴ礁のドロップオフ。垂直落下の浮遊感が醍醐味のひとつ

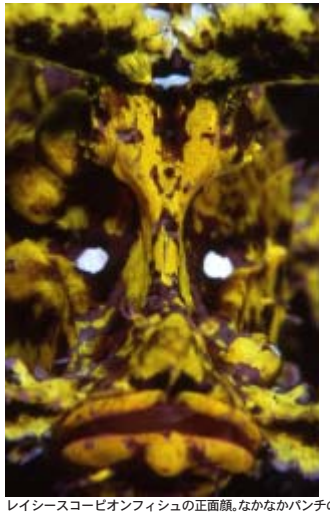
豊かなサンゴの楽園で
ダイナミックな地形を楽しむブナケン国立公園は
何度潜っても飽き足らない

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

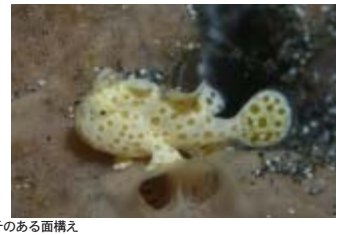
砂地で見つけたサザナミフグ。呑気に空を見上げていた



PHOPHOというかわいい名前のダイビングポイント明るい砂地でリラックスしながら、かわいいお魚とご対面！



レイシースコーピオンフィシュの正面顔。なかなかパンチのある面構え



左上)イバラダツの擬態を見破る
左)小指の爪ほどのクマドリイザイウオの幼魚
上)オレンジ色のドットがかわいいクマドリイザイウオの幼魚(あくび中)

ダイビングの最終日を飾るのはメナドの町から南下した位置にあるPHOPHO(ポポ)。
メインのポイントは隣接するマラポイントとレイシーポイント。そして岬の先端にあるヤスポイントの３つ。

マラポイントとレイシーポイントは岸から沖合い約50m先のなだらかな傾斜の白い砂地のポイント。透明度も良く、明るい砂地が広がる。一見すると生物があまり、いないように思えるが、実は、ここもレンベ並に小物が豊富。マラポイントではイザリウオやイバラダツが数多く見られ、自らも探すことができる程。ゼブラバットフィッシュ、ニシキフウライウオ、ウミテングなど、なんの変哲もない砂地からどんどん見つかる。中でも小指の爪ほどの黄色い斑点を持つクマドリイザイウオの幼魚はキュートで堪らなかった。以前、私は水族館で始めて白イルカのベルーガを見たときに、"ドキュン"と胸を打ち抜かれた。そして恋に落ちた。その時と同じ(笑)。

お隣のレイシーポイントには目玉の生き物がいる。それはレイシースコーピオンフィシュというボロカサゴの仲間。体長は約20cmの大きさだが、その存在感はサメにも負けないくらいインパクトがある。数年前から、住み着いているポポの名物魚。黄色ボディは、水中でよく目立ち、胸鰭を堂々と広げ、天を見上げるような姿は迫力満点。みんなに取り囲まれて、バシバシ撮影されても、ちゃんとモデルをこなすツワモノ。
ヤスポイントは、ヤギ、ソフトコーラル、ウチワなどが連立するドロップオフが特徴。このポイントには、まだあまりダイバーが入っていないため、ワイルド感がとても漂っている。

エリア全体の印象として、明るい砂地は、まるで大きなグランド(運動場)のようで気持ちが良い。リラックスしたり、小さな生物に夢中になったりする。クルーズ最終日はPHOPHOエリアで思いっきりスローダイブを楽しもう。

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

昨年、リニューアルされたミンピ号は快適なクルーズ船 フレンドリーなクルーたちとプライベート感覚でメナドの海を巡る

フレンドリーで愛すべきミンピ号のクルーたち

上）ダブルベットの部屋の室内写真
右）各部屋に付いているシェワー&トイレ室

２段ベットの部屋の室内写真

メインサロンの室内写真。くつろぎのスペース

ミンピ号

白い帆船タイプのダイビングクルーズ船。全長20.6m。幅5.26m。定員は8名とプライベート感覚が楽しめる。去年、リニューアルし、サロンなどゆったりとした空間を確保。階下の部屋は4つで2段ベットの部屋が２つとダブルベットの部屋が2つ（各トイレ、シャワー、エアコン付き）。自慢のトップディキのオープンテラスも開放感に溢れて船で旅する気分を満喫することができる。食事はブュッフェ方式で、美味しい日本人の口に合うインドネシア料理など。

ダイビングスタイルについて

クルーズ船、もしくはスピードボートからのエントリー。セッティングなど器材の管理は、全てクルーが行ってくれる。ガイド付きで潜水時間は約60分（ポイントによって多少異なる）。1日4ダイブ、下船する前日だけ1日3ダイブ。ナイトダイブはリクエスト次第。

気候、水温、ウェットスーツについて

赤道直下に位置するメナドは熱帯性気候で、5月～10月が乾季、10月後半～4月が雨季。日中の気温は通年で26～31度、水温は通年で27～29度、透明度は平均25～30m。3mmのウェットスーツでも大丈夫だが、レンベ海峡がやや水温が低いので5mmウェットスーツ、もしくはフードベストがあったほうが良い。

ミンピ号クルーズのスケジュール例

ミンピ号のクルーズは4泊5日で、ブナケン島周辺、バンガ島周辺、レンベ海峡、ポポと4つの海域を網羅している。夕方、ホテル　サンティカメナド内にある桟橋から出港し、スラウェシ半島の北にあるバンガ島に向かう。そして静かな内湾で船中泊。翌日からダイビング開始。初日は、バンガ島周辺でのダイビング。1本目はチェックダイビング（スキルチェックなどはない）という感じでウエイトなどの調子をみながらダイビング。その後、バンガ島周辺で3ダイブ。2日目は、レンベ海峡で４ダイブ。その後、バンガ島まで移動し、夜はバンガ島でキャンプファイヤー&ディナー。3日目はブナケン国立公園で4ダイブ。4日目はポポエリアで3ダイブ。その後、メナドの町へお買い物ツアー。大型のショッピングモールなどでお土産ものなどをゲットする。翌朝、下船後、空港に向う。

※日中4本のダイビングを予定。スケジュールにより、４本目がサンセットダイブになることことも。ナイトダイビングはリクエストベース。但し、昨年のクルーズでは、ほとんどサンセットダイビングまでで、ナイトダイビングはほとんど行わなかった。
※天候等によりスケジュールの変化もあります。

スラウェシ島・メナドとは

スラウェシ島の北部に位置するメナド。地図で見ると首長竜の形をした大きな島のちょうど頭の部分にあたる。スラウェシ島の面積は19万平方km。で日本全土の約3分の2にあたる。イギリスの博物学者、ウォーレスが指摘した、動植物の生態を東西に分けた「ウォーレス線」。その境界線はスラウェシ島と西隣のカリマンタン島とを隔てるマカッサル海峡にあり、スラウェシ島でしか見られない様々な動植物の宝庫となっている。海もまた、インド洋と太平洋の海流が交じり合う。入り組んだ地形の長い海岸線と点在する島々は豊かな海に囲まれている。

スピードボートを使って
ダイビングから帰ってくる

関連情報を見る▶ http://www.wtp.co.jp/manado/diving/dive-safari/boat/mimpi.html

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

クルーズライフはとても楽しい！開放的なサンデッキで記念撮影

上）お茶面なクルーのゲストの仲良し写真
右上）大きな焚き火だ！これはスペシャル・ミンピ号クルーズの恒例の催しもの

美味しいクルーズのお料理

夕日に色づくメナドトゥア島

ミンピ号で行く
スペシャルクルーズが楽しい

ゲストインタビュー

芝山貴子さん

なんといってもよそでは見られないプテラポゴンやゼブラバットフィッシュと会えたのが嬉しかったです。あのピュっと出るカレイの仲間も。ブナケンは、透明度良し、珊瑚良しの、もの凄くきれいなポイントで、感動ものでした。おまけにギンガメやロウニンなどにも会えます。クルーズは、みんなで和気あいあい、毎日が楽しくて、あっという間に終わってしまいました。メナドの海は、とても癒されます。

関口哲夫さん

私は昨夏、レンベ海峡、バンガ島、ブナケン島でのダイビングを経験しました。レンベ、ブナケンはマクロ天国、ブナケンはワイドな海と、とても楽しめました。ミンピ号はゲスト数に対し広さもあり快適で、ボートスタッフは最初シャイでしたが最終日には一緒に地酒で楽しく盛り上がりました。

吉村かつやすさん

去年参加させて頂いたミンピ号でのダイブクルーズの印象は、マクロから大物まで幅広く楽しめ、またレアな魚の宝庫といったものでした。バンガ島ではソフトコーラルが美しく、レンベ海峡ではプテラに感動！ ミミックオクトパスを見れなかったのが残念でしたが、ブナケン島ではバラクーダなど群れモノ!鍵井さんをはじめ、みなさんには大変お世話になりました。アルフレッド（だったっけ?）の料理もなかなかでしたよ。

村田弥生さん

（写真・乗船してくれた小田文（左）さんと村田弥生さん）

どのエリアも海の中の景色が全く異なっていてバラエティに富んだ海でした。大好きなマクロがどこも充実していて、見たこともない不思議な生物や稀少種を次から次と見つけてもらい興奮の連続!! このメナドの海にすっかりどっぷりハマりました!クルーズ船は小さいけど部屋は小奇麗でシャワー・トイレも完備されていたので快適に過ごせたました。。また、このこぢんまりとした空間が他のゲストの方達やスタッフともすぐに仲良くなれて初日から毎晩宴会をしてとっても充実した楽しい旅になりました!

砂原　聖子さん

2004年夏、ミンピ号クルーズに参加しました。インドネシアの海は初めてではありませんでしたが、とにかく日本ではあまり見られないような多種多様の色とりどりの魚たちが「えっ、こんなに陸から近いところにいるの?」とびっくりするくらい簡単に見れたことに感動しました。食事は本場の（?）インドネシアン料理が食べられます。鍵井さんはもちろんミンピ号のスタッフもみんな気さくな人ばかりで、とてもとても充実したクルーズでした。

深谷　聡さん

ミンピ号クルーズでは、蛍光ソフトコーラルの森バンガ島、レア物の宝庫レンベ海峡、ブルーのドロップオフのブナケンと1トリップで3度おいしい海を堪能しました。初物にもたくさんお目にかかれ、少人数でのクルーズだったためゆっくりと楽しむことが出来ます。現地ガイドもレベルが高く、いろいろ見せてくれるのでおなか一杯になれます。ただ、シロガヤが多いのでちょっとだけ注意が必要。次も行きたい海のひとつです。

メナドの海に惚れ込んだ水中写真家 鍵井靖章と行く スペシャル・ミンピ号ツアー開催

昨年の好評！に引き続き今年も鍵井靖章の乗船ツアーを行います。昨年の経験をベースにして今回はよりパワーアップしたクルーズライフを皆さんと楽しみたいと思っております。メナドの海のことや撮影ポイントなど、いろんな情報を聞いて下さい。

※昨年のミンピ号航海日誌は
http://kagii.jp/cruise/にて公開中

［ツアー日程］

●出発日（東京・名古屋・大阪・福岡発）
2005年8月21日、28日、9月4、11日
※ 日本発着８日間（クルーズ５泊６日）

ツアースケジュール	朝	昼	夕
1　各地よりシンガポールまたは、デンパサールへ 到着後、シャトルバスにてホテルへ ＜ホテル泊＞	－	－	機
2　朝：送迎車にて空港へ、空路にてメナドへ 午後、到着後、シャトルバスにてクルーズ船へ ＜船中泊＞	－	機	○
3　終日：1日4ダイブ予定 ～　予定ルート：3日目（バンガ島）、4日目（レンベ海峡） 4　＜船中泊＞	○	○	○
5　終日：1日4ダイブ予定 予定ルート：5日目（ブナケン国立公園） ＜船中泊＞	○	○	○
6　3ダイブ予定 予定ルート：6日目（ポポエリア） ＜船中泊＞	○	○	○
7　午前：下船後、空港へ メナドより空路にてシンガポールまたはジャカルタへ 深夜：シンガポールまたは、ジャカルタより各地へ ＜機中泊＞	○	－	機
8　朝：到着後、自由解散	機	－	－

〈ツアーのお問い合せは〉 ワールドツアープランナーズまで

info@wtp.co.jp
http://www.wtp.co.jp/
東京、神奈川、千葉、埼玉からは　Tel 03-5425-7711
上記以外からは、フリーダイヤル0120-537355
営業時間：10:00～18:00（平日）、10:00～15:00（土曜日）

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます